

七月テーマ展示



図書館運営委員の
先生方の
おすすめ本



2021年7月テーマ展示 図書館運営委員の先生方のおすすめ本



書名	著者名	請求記号	資料ID	コメント
内向型人間の時代：社会を変える静かな人の力	スーザン・ケイン	141.93/C	1201304248	私自身が内向型の人です（shyじゃなくて、introverted）。この本を読んで、自分が内向型であることを再確認しました。内向型というのは「グループよりも、1対1の会話を好む」・「ひとりでいる時間を楽しめる」・「財産や名声や地位にさほど興味がない」人です。“それが私だ”と思っている人にこの本を薦めます。自分を理解するために役に立つと思っています。その上、学校や職場、社会など様々なところで成功や自己主張できるようにこの本に沢山アドバイスが載っています。
RANGE (レンジ)：知識の「幅」が最強の武器になる	デイビッド・エプスタイン	159/E	1202100367	大学の教職員として言うのがおかしいと思われるかもしれませんが、私自身、一つだけの課題や分野に専念、専攻するのがもったいないと思っています。知識や経験の深さだけでなく幅の広さ(RANGE)を持つことが有益です。いろいろな分野に対する知識と経験が豊富な人が成功のカギを握っています。将来的に教育に携わる人や自分の子供をどうやって育てようかと考えている人にこの本を薦めます。
回勅ラウダート・シ：ともに暮らす家を大切に	教皇フランシスコ	198.24/F	1201603037	教皇フランシスコの回勅（ローマ教皇から全世界のカトリック教会の司教にあてて書かれる文書）の邦訳本です。地球環境の危機を憂い、地球という共通の家に住む人類全体で真剣に受けとめ、その解決のために具体的に行動しようと呼びかけています。2019年、日本にも来てくださった教皇フランシスコが提唱される「エコロジカルな回心」の思いにぜひ触れてみてください。
日本の近代化と民衆思想	安丸良夫	210.6/Y	00025140	この本は、民衆の視点から「日本近代とは何か」という根源的な問いに迫る名著です。困難と苦渋に生き、でも快活さを失わない民衆の姿を通して、矛盾を含みながら近代化していく日本社会のありようを描きだしています。社会が混迷を深めるとき、ひとは過去の歴史を振り返ろうとします。私たちが生きる社会はどのようにして出来上がったのか、私たちが抱える諸問題は何に由来するのか。今の社会を見つめなおす上で、本書は多くの示唆を与えてくれるはずです。
世界を変えた100人の女の子の物語：グッドナイトストーリーフォーレベルガールズ	エレナ・ファヴィッリ, フランチェスカ・カヴァッロ	280.4/F	1201802693	ビートルズのメンバーだったジョン・レノンと結婚し、共に平和活動、音楽、創作活動を行ったことでも知られているオノ・ヨーコをはじめ、世界のどこかで、本当にあった女王、芸術家、スポーツ選手からスパイまで「世界を変えた100人の女の子の物語」です。我が家でも夜眠る前に、小学生だった娘に毎晩2話ずつ50日かけて読みました。とても素敵なお話です。

生物と無生物のあいだ	福岡伸一	460.4/F	1200802583	生命（生物）現象のキーワード「動的平衡」を分かりやすく説明しています。要は、皆さんの体はかたちを保持しているが、原子レベルでは常に入れ替わりが起きていることを説いています。文系の皆さんも楽しめる小説のような1冊です。ぜひ、生命の不思議を体感してください。
沈黙の春：[新装版]	レイチェル・カーソン	519.79/C	1200400009	私たちの身の回りのほんの小さな出来事が、気づけば自然界全体の大きなうねりとなつがっていることに気づかされ、現代の在り方を考えさせられる一冊である。
沈黙の春	レイチェル・カーソン	51/C	9200110020	著者のレイチェル・カーソンは海洋生物学者であるが、時代を見据えた鋭い視点は興味深い。自然と化学の共存を考える機会となる本書をおすすめ本としたい。
英語のでこぼこ道：私のアドバイス	西山千	830/N	1202100675	「なぜ英語を学ぶのか」、「どのように英語を学べばよいのか」は多くの英語学習者にとって大きな問題であり、これまでも幾多の論争がおこなわれてきました。中津燎子氏は、英語の専門家ではなく海外生活を経験した主婦の立場で、近所の人たちに頼まれて小学生グループを教えることになり、それから中高生、大学生、社会人と輪が広がる形で英語教育に携わりました。中津氏の素朴な疑問をタイトルとしたこの本は当時、多くの人々の共感を得て、ベストセラーとなりました。
なんで英語やるの？	中津燎子	830.4/N	1201901323	一方、西山千氏は、1969年のアポロ月面着陸を英語で宇宙中継し、当時珍しかった同時通訳という職業を広く一般に知らしめました。岡山県総社市出身の英語のプロからのヒントとアドバイスには学ぶべき点が多くあります。英語の素人とプロによる2冊を同時に読むことで、英語への理解が一層深まるものと思います。
スパイの妻	行成薫	913.6/Y	1202100702	映画『スパイの妻』（2020年）は、第二次世界大戦中の1940年を舞台に、国家機密を知ってしまった優作と、優作を信じ「スパイの妻」として生きる事を決意した妻、聡子のドラマを描いた黒澤清監督の渾身作だ。戦時中の中国での日本陸軍の残虐行為という歴史の闇に挑んだ力作は「第77回ヴェネツィア国際映画祭」で「銀獅子賞」を獲得したラブ・サスペンスである。その小説版である行成薫の『スパイの妻』（講談社文庫）を推薦します。
兎の眼：長編小説	灰谷健次郎	913.8/H	00104453	“小谷先生は黒板に「なに？」とかいた。”ここから始まる小谷先生の授業に憧れました。“苦しんでも自分で考えて、自分でつくりだすようにします。”この決意に授業に正対することの厳しさを学びました。ハ工博士の鉄三、くらげっ子みな子。様々な子どもに寄り添いながら、小谷先生のまなざしは柔らかく変わっていきます。共生社会の実現が求められている今だからこそ、きっと“心がずんと”する。そんな一冊だと思うのです。
しろさんのレモネード屋さん	まつぎまさみ 文/やはらゆう こ絵	J/Y	1202101128	日本で毎年2000人から2500人の子どもたちが、小児がんと診断されています。小児がんの榮島四郎くん（しろさん）が考え、行動したことを基に描かれた絵本『しろさんのレモネード屋さん』は、小児がんっていう病気があるということ。病気の治療をがんばっている子たちがいるんだよっていうことを伝えることを目的に作られた作品です。岡山で出版されていて、井原市のマスコット「でんちゅうくん」も登場しています。